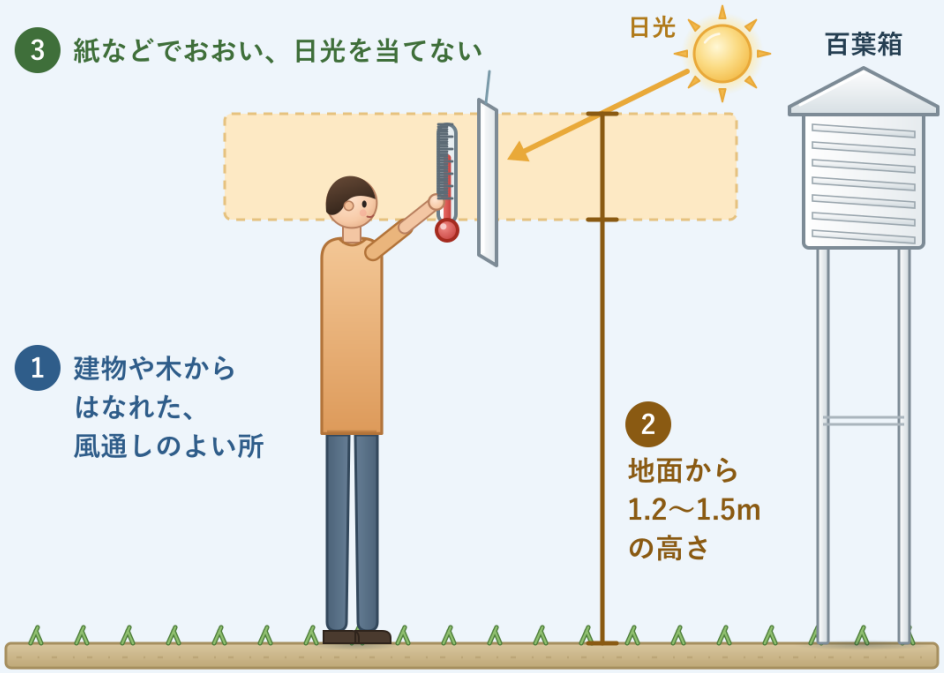
気温のはかり方と温度計の読み方

天気による気温の変化を比べるには、どこで、どのようにはかればよいかな

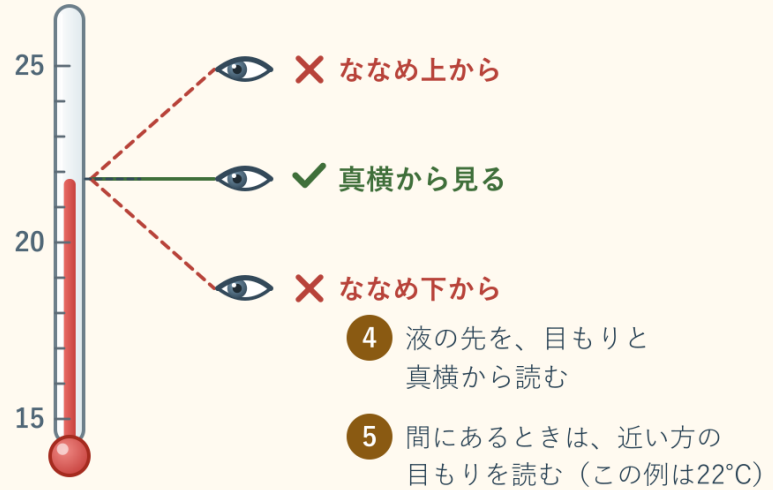
1 気温（空気の温度）をはかる場所と高さ



温度計を持ってはかるとき

百葉箱があれば、その中で読む

2 温度計の読み方



4 液の先を、目もりと真横から読む

5 間にあるときは、近い方の目もりを読む（この例は22°C）

気温と地面の温度は、はかり方がちがう

気温：空気の温度。地面からはなし、日光を当てずにはかる。

地面の温度（3年）：液だめを土に入れてはかる。

よくない例

- ✕ **日光が当たったまま** → 温度計があたためられ、気温より高くなる
- ✕ **地面の近くではかる** → 地面の温度に近くなり、気温にならない
- ✕ **液だめを手でにぎる** → 手の温度で、高くなる

! 安全のために

温度計はガラスでできている。
落としたり、ふり回したりしない。
われたら、さわらずに先生に知らせる。

※ 模式図。高さや温度計の形は例。温度計は、学校で使う物によってちがう。完全な操作手順ではない。